

ご 挨拶

会 長 木 下 文 雄

日本核医学会が誕生したのもついこの前のように思われますが、約 500 題の演題を集め、6 会場で 3 日間に亘る大きな学会にまで成長しましたことは会員一同の大きな喜びと存じます。本年はパリで開催される第 3 回世界核医学会を 8 月末に控えたため、準備の都合上、演題メ切日を早めたため、また東京での学会は観光する楽しみもないこともあり、演題の集まり工合を心配しましたが、一般演題は 470 題にもなり会場をさらに追加して 6 会場にせざるを得なくなりました。しかし皆様の御便宜を考え、会場(第 1~第 6)、機器医薬品展示場、懇親会場など、少し贅沢な気はしましたが、すべて京王プラザ内に準備致しました。

今回の学術総会はシンポジウム、教育講演など、日常臨床に直結した、明日よりの糧に直接なるような内容になるよう努力しました。

特別講演は日本医師会会長を長く勤められ、日本の核医学の pioneer であり、日本アイソトープ協会副会長もしておられる武見太郎先生にぜひにお願い致し快諾して戴きました。

今回の総会で名誉会員に推挙される方は阿武保郎、尾関己一郎、高橋信次、増田正典、御園生圭輔、山下久雄の諸先生で、皆様のお話をぜひともお伺いしたいところでしたが、時間的制約もあり、山下久雄先生に代表してお願い致しました。

外人招待講演としましては、Gustave-Roussy 研究所(パリ)の Tubiana 教授に甲状腺癌の Radioimmunodetection, Royal Marsden Hospital の McCready 教授に、甲状腺、肝、腎、脾の総合画像診断, Ulm 大学の Adam 教授に血液プールのスキャンによる心機能の解析, Michigan 大学の Keyes 教授に single photon ECT の臨床応用, Pennsylvania 大学の Kundel 教授に NMR についてお話し戴きます。また Munich 大学の Büll 教授には虚血性脳疾患の電算機利用の RI Angio, Illinois 大学の Pavel 教授には cardiac phase analysis, California 大学の Ashburn 教授は心機能評価のための RI Angio と digital intravenous ventriculography, また韓国からは Bahk 教授, フィリピンからは Felizardo 博士が来られ講演されます。

シンポジウムはプログラム委員会の皆様の御意見を総合して、核医学検査の進歩と問題点という共通テーマで、核医学検査の限界を含めて、In vitro test は入江教授、森田助教授に、Imaging の efficacy は内山教授、町田助教授に企画して戴き、それぞれの専門家の御参加を得て、現状をある程度教育的にもお話し戴けるものと思っております。

教育講演はコンピュータ利用を有水昇, Radioimmunodetection を小路敏彦, 心臓を飯尾正宏, 甲状腺を飯野史郎, 呼吸器を川上憲司, 腫瘍を越智宏暢, 血液を齋藤宏の諸先生にそれぞれお願い致しました。特に飯尾教授には、心臓の演題が 117 題と非常に多く、会場は 2 会場同時進行であり、また他分野の核医学者には難解の面も多いため、米国核医学会の例を参考に、今回は試みに心臓核医学の全演題の総括を教育的に纏めて戴くことをお願い致しました。

サイクロトロン関係は最近京大、九大、群大、秋田脳研など相次いで予算化され、臨床研究としての稼働も間もないと考えられ、また今後新設を企画されている施設も多いので、パネルディスカッションの形で取上げ、館野先生、上村先生に司会をお願い致しました。

一般演題は 470 題と非常に多数の御参加を戴きましたが、心臓血管は 117 題と約 1/4 を占め、肝・胆・膵 48 題、腫瘍・炎症 35 題、脳・中枢神経 32 題、ECT・サイクロトロン 32 題、甲状腺 29 題、in vitro 28 題、放射性医薬品 25 題、肺 23 題、腎・尿路・生殖器 22 題、骨・関節 21 題、血液・骨髄・リンパ節など 19 題、機器・電算機 8 題、消化器 8 題、その他 1 題で、Work in progress も 22 題の参加を得ています。心臓核医学の演題数は前年度よりさらに増加し、今年度の米国核医学会と同様に圧倒的多数を占めています。

機器展示は京王プラザ内の方が皆様に便利であり、展示する側も多数の参観を得られる利点から、やや狭い欠点はありましたが、京王プラザ1階の外側の展示場（プラザナード）を使用しました。ところが展示希望が非常に多かったため、希望されたスペースの2/3くらいに縮小せざるを得なかったことをお詫び致します。しかし地の利が良いので多数の方が参観され、その欠点をカバーして戴けるものと考えております。

会員懇親会は第2日目、第1会場のみを5時30分までに打ち切り、1時間後の6時半より引続き同会場で行われます。慶応義塾大学の管弦楽団の応援出演を得て、なごやかに賑やかに催したいと思っておりますが会員皆様の多数の参加を期待しております。二次会は歌舞伎町で、年齢層でちょっと無理な気も致しますが、新宿の夜をお楽しみになったらと思います。

核医学会も第22回を迎え、演題数も500題と大きな学会にと発展成長して参りました。準備を始めて見ますと、事務的にも、経済的にもなかなか大変なことが良くわかりました。しかし橋本教授、久保助教授を始め、慶応義塾大学放射線医学教室の皆様、都立大久保病院の皆様方、また駒込病院、広尾病院を始め各都立病院の放射線科の医局の先生方、技師長を始め多勢の技師諸兄、また核医学関係の業務に携わる皆様方の並々ならぬ御支援と御協力を得て、どうやら順調に進行して参りました。

本誌上を借り厚く御礼申し上げる次第です。

またなにかと不馴れのため、不行届の点もあろうかと思われませんが、その節は何卒御寛容下さい。

最後に会員の皆様が一人でも多く参加され、学術総会が盛大な意義のあるものとなりますよう、また同学の土が一同に会して楽しく旧交を暖め合う機会になりますよう切望して御挨拶と致します。

第22回日本核医学会総会のプログラム編成にあたり、下記の方々にプログラム委員をお願い致しました。

委員長	木下 文雄						
副委員長	久保 敦司						
顧問	有水 昇	飯尾 正宏	鎮目 和夫	永井 輝夫	橋本 省三	安河内 浩	
委員	浅原 朗	飯沼 武	石井 勝己	石橋 晃	入江 実	内山 暁	
	大島 統男	大塚 英司	奥山 武雄	小野 慈	小山田日吉丸	折井 弘武	
	樫田 義彦	片山 通夫	川上 憲司	日下部きよ子	国安 芳夫	小林 剛	
	三枝 健二	佐々木康人	鈴木 豊	高木八重子	館野 之男	出村 博	
	長瀬 勝也	半田俊之介	菱田 豊彦	前川 全	町田喜久雄	三本 重治	
	宮前 達也	村田 啓	村山 弘泰	弥富 晃一	山岸 嘉彦	山崎 元	
	山崎統四郎	山田 英夫	与那原良夫				

(敬称略 五十音順)